



2015年4月には、市町村が学童保育
の基準を決めることになります。

学童の条例づくりに、私たちの声を届けよう！

6月9日県連絡会の総会を開催しました。

総会記念講演会（山本博美さん）に70名参加！

第7回県連絡会の総会を、6月9日霧島市「国分いきいき交流センター」にて11クラブ23名の参加で開催しました。

総会では、2015年4月「子ども・子育て支援法」施行を控えて、市町村に対する働きかけを強めていくことが確認されました。また、県連絡会と地域連協との連携、県内43市町村への要望活動を進めていく方針が決定されました。（要望事項は、下段に要約を掲載しました）

午後からの総会記念講演会は、前全国連協の会長で指導員歴30年の山本博美さんがユーモアを交え、笑いとお話に「そうそう！うちの学童でも同じ…」と、指導員としての誇り（仕事に対する）、子どもと保護者、指導員…みんなつながりの中で育ち合うのが学童保育だ！…日々の実践からの講演に聴き入って、アッという間の2時間でした。

（参加者のアンケートは次ページ掲載しました。）

■2013年度活動の柱と重点課題

- 1, 月刊誌『日本の学童ほいく誌』購読目標数を400冊にする。
- 2, 「私たちが求める学童保育の設置・運営基準」を市町村に働きかける。
- 3, 県議会議員や市町村議員への働きかけ（学童推進議連づくり）
- 4, 研修会への参加と県連加盟への働きかけを強める。

【参加者のアンケートから】

- ・笑いがあったり、ジーンと心を打たれたり、山本先生のお人柄が伝わってくるようでした。「そうそう、そういう子はい…」と同調しながら楽しく参加できました。
- ・子ども、親との接し方、向き合い方を考えさせられ、初心を思い出すきっかけになりました。
- ・実例が一杯で、とても楽しく聞きながら勉強になりました。先生から元気をいっぱいもらえました。

■市町村の「事業計画」「条例づくり」への要望

私たちが求める学童保育の基準をつくるために！



市町村の学童保育（放課後児童クラブ）担当課への要望事項をまとめました。

県連事務局

- ① 市町村が設置する「地方版子ども・子育て会議」に学童保育関係者をメンバーに入れること。
- ② 「地域子ども・子育て支援事業計画」策定にあたっては、学童保育を13事業のひとつとしてではなく重点事業と位置づけること。
- ③ 「事業計画」のニーズ調査は、学童保育の量的・質的な拡充と適切な把握（潜在的なニーズ把握も含む）ができる内容とすること。（パブリックコメント等のとり組み）
- ④ 学童保育の基準づくりにかかわって

市町村が定める学童保育の基準はどうあるべきかを考えるうえで、学童保育はどうあるべきか、私たちがどのような学童保育を求めているのか明らかにするのがもっとも大切なことです。

 - i) 市町村が作成する条例には、全国連絡会が作成した『学童保育の保育指針（案）』（別紙で同封しました）が反映されるようにすること。
 - ii) 条例の設置基準にあたっては、『私たちが求める学童保育の設置・運営基準』（別紙で同封しました）を参考にすること。

iii) 指導員の配置基準は、常時複数の常勤配置（午前中からの勤務体制）を基準とすること。

⑤ 確実に学童保育に予算措置がなされること。

現在交付されている学童保育の運営費補助金は、目的税であり学童保育以外に使われることはありませんが、新しい制度では、学童保育への予算は、「一括交付金」として国から市町村に交付されることとなります。「一括交付金」とは、13の「市町村事業」への予算措置を、一括して市町村に交付するという仕組みです。これをどの事業にいくら使うのかは市町村の裁量で決められます。

※ 国からの交付金には、施設型給付（保育所・幼稚園・認定こども園など）や児童手当給付などの「義務的経費」（国が決めた金額が交付される）と、市町村事業のように市町村の裁量によって交付される「裁量的経費」があります。

また、交付金は、市町村が策定した「地域子ども・子育て支援事業」に基づいて交付されます。

13の事業について、市町村がどのような計画を立てるかによって交付金額が異なってきます。それぞれの事業の実施に必要な国が決めた「単価」にもとづいて、交付金額が算定されます。

2013年6月9日鹿児島県児童クラブ連絡会第7回総会 山本博美さん講演会アンケート

・市町村名 霧島市(24) 薩摩川内市(11)

指導員(32) 保護者(1) 設置者(1) 不明(1)

初めて参加した(8) 参加したことがある(26)

参加いただいた方からのアンケートです。(抜粋)

■今回の記念講演（山本博美さんの講演）は、いかがでしたか？

- ・具体的な事例をもとにして、わかりやすく楽しい、ためになるお話でした。2時間、聞くのが長いなと思いましたが、アッというまでまだまだ続けて聞いていたと思います。
- ・貴重なお話をありがとうございました。自分が勤めている児童クラブの様子を思い浮かべながら、お話を聞かせていただきました。自分が子どもたちからどんな指導員と思われているのかなあ、何でも話せる指導員でありたいと思いました。これからも、一人ひとりの子どもを内面から理解できるよう努めていきたいと思います。
- ・具体的な話なので、とてもよく理解できました。うなずくことばかりでした。改めて初心に帰った気がします。
- ・いつも子どもたちの様子を聞いたりはしたいと思っていたので、今日はその話が中心で参考になりました。子どもだけでなく保護者のことをおたよりに…は、今まで考えことがありませんでした。保護者にも寄り添えるようになっていきたいと思いました。子どもを“知る”と“分かる”は違うなど改めて感じました。「子どもの中にいる」をこれからもしていきたいと思います。
- ・子どもたちのことを分かっているのと知っているのとは違うという言葉が、心に大きく響きました。共感的に深く深く理解するという想いを、これからの毎日の中で大切に胸に刻み過ぎていこうと思います。
- ・笑いがあったり、ジーンと心を打たれたり、山本先生のお人柄が伝わってくるようでした。「そうそう、そういう子はいる…」と、同調しながら楽しく参加できました。
- ・実体験の中で感じたこと、起こっていることを中心にお話いただき、ユーモア一杯で楽しい講話でした。子どもを通して声かけについて学んだ。親としても子どもとの関わり方に悩む日が多い中、他人がどのようにして子どもを理解して関わっていくのかという過程を見せてもらいました。
- ・一人ひとりの子どものかお（表情）が想像できるようなお話でした。わが学童でも話された子どもと重なる子どもがたくさんいます。一人ひとりの子どもを全て受け入れ、よりよい子ども同士のつながりを大事にスムーズにいくように手助けできるようにやりたいと思いました。親同士や親との関わりも、子供を預かる中で信頼される指導員でありたいと思っています。
- ・壇上から自分の意見のみをしゃべり続けるのではなく、リスナーと同じ指導員として、同じ高さの視点で終始話されており、考えさせられることが多かった。
- ・子ども、親との接し方、向き合い方を考えさせられ、初心を思い出すきっかけになりました。
- ・先生の体験された実話を聞けて、とても楽しかったです。保護者への一言もとても面白かったです。ですが、話しの場面が見えるところや話しの内容が良く分からないところもありました。「安心感」「つながり」は、言葉ひとつで大きく変わるのだと感じました。学童に持ち帰り、生かしていきたいと思います。
- ・実践の話しが聞けて、よかったです。親への接し方も参考になりました。
- ・子どもの話とか、うなずくことが多かったです。具体的な話が出てとてもよかった。
- ・ベテランの指導員さんらしく、いろんな例をあげてとてもわかりやすく、子どもへの接し方を教えていただいて、すごく勉強になりました。「子どもはかわる」ということの大切さその上で全体がまとまるというお話は思い当たることがあり「その子どもが何を欲しているのか」に目を向けることがベースになるんだと深く理解できました。
- ・子どもたちの行動の中に見られる本質や本音を指導員が上手にくみ取って、子どもたちの訴えを全身で受けとめる姿勢が大切だと思いました。時には冗談まじりに、真剣なときには本気で、子どもの気持ちになって考えていきたいと思いました。
- ・日々の保育の中で同じような悩みや子どもたちのエピソードを大変楽しみながら聞かせていただきました。他の指導員にもぜひ、伝えたいと思います。
- ・子どものつぶやきを見逃さず、その子にあった見守り、援助の大切さを改めて大事だなと感じたし、子どもたちは子どもの中で育つということを、大切にしていきたいと思いました。
- ・実例が一杯で、とても楽しく聞きながら勉強になりました。先生から元気をいっぱいもらえました。
- ・ユーモアのあるお話や心温まるお話、たくさん元気をいただきました。
- ・笑いあり、涙あり、毎日の自分たちも経験している出来事でとても参考になりました。
- ・毎日の学童生活の中から、そうだなあ〜とそうしたらいいんだなあ、という気づきがありました。これからはがんばっていききたいと思いました。
- ・子どもたちの事を話されてる時、涙を流していらっしやるのを見て、先生のおっしゃっていること、伝えてくださることに全て共感できました。先生のように「この人なら」と思ってもらえる指導員を私も目指します。
- ・自分の多くの経験を交えながらの子どもの立場、保護者の立場、指導員の立場で色々な話をいただいて、とても楽しく過ごさせていただきました。
- ・笑いあり、涙ありのアッという間の2時間でした。
- ・とても良かった。学童の指導員全員で聞いたことが何よりも良かったです。
- ・いろいろな事例を聞かせていただき、うちの学童でも同じようなことがあると思いました。結果的には子どもの中で育っていくんだ、と思いつつも子どもの行動・言動についカッとなって、そんな言い方をしたらと指導をしてしまうことも多々…反省です。今日の山本先生の話を聞かせていただき、もっと子どもの中に入り、子どもの声、つぶやきを聞いていくことと思いました。
- ・とても楽しかったです。子どもたちとの関わり方、とてもステキだな、見習いたいなと感じました。
- ・とても楽しく拝聴しました。お話の子どもさんたちがイキイキと息づいていました。山本さんの子どもさんたちへの愛情のみならず、保護者への愛情を感じました。まだまだ新米で分からないことばかりですが、理解し受け入れるという所からなら、努力していけるかなと思っています。ありがとうございました。



■講演で印象に残ったことは、どんなことですか？

- ・子どもや親と指導員と一緒に、というあたたかい気持ちです
- ・先生が、実際に見てきた子どもたちのお話が、とても面白かったです。児童クラブにいる子どもたち重なって聞かせていただきました。
- ・しゃべることで見えてくることは、一杯ある。自分だけで悩んでいるのではないんだ、と解決策だと思いました。
- ・おたよりに載せていらっしゃる、子どものおしゃべりや保護者の仕事のこと、自分はなかなか書けない（了解はとっていらっしゃるようですが）、参考になりました。
- ・指導員も「親を支えている」という誇りをもって仕事をするという言葉に励まされました。
- ・子どもたちのお話し全て忘れず、明日につなげていきます。
- ・先生の児童クラブの実体験のお話が一番印象的でした。子どもと話しをすることは私も大好きです。おやつを食べながらままごとをしながら、子どもたちの笑顔、つぶやきに私自身が癒されています。
- ・子どもとのつながりのなかで育て、育ち合っているところ。
- ・仕事は自分のために頑張っている。仕事に誇りを持って働いている。自分の時間を持つ（見つめなおす、ふりかえる）リフレッシュ。
- ・子どもたちが何でも話してくれる。安心できるような聴き上手であることの大切さ。一人ひとりの子どもたちを知る（内面まで）ことの大切さ。今後指導員としての接し方に生かされたいと思います。
- ・学童における子どもの事例を上げておられたが、子どもは新人の先生を試したり観察しているのは、よく言われることで山本さんも話していた。子どもはアンテナを張っており、大人を見ているわけだが山本さんのように子どもを理解するためには、大人の側もアンテナを張っていなくてはならず、子どもの送信をのこさずキャッチするには、大人が子どもの発する「電波」を見逃さないようする技術を磨くことが大切だと思えた。
- ・全体を通して「安心」を一番に話していたこと。
- ・最近の子どもは失敗をしたがらない。子はほんとに親が好き
- ・常の子どもの中に自分を置くということを、改めて日頃の自分はどうか？と考えさせられました。
- ・いろいろな子どもがいる中で、一人ひとりをよく理解し、きずなを深めていきたいと思います。
- ・「安心感」「つながり」この2つが大きかったです。子ども親に対して「安心感」「つながり」を心がけていきたいと思います。
- ・子どもを分かったつもりではだめ、子どもは変わっている。子ども同士をつなげてあげる。子どもの中に身を置く。
- ・指導員は子ども中にいるのが基本。一緒に遊ぶ、一緒に過ごすということが、子どもを分かる上で一番大切なことだと改めて痛感しました。
- ・先生が話しの中で涙してしまわれた時は、私もそんな時があるなと思いながら話を聞いておりました。色々なことで悩んでいましたが、これでよかったと思います。
- ・山本さんの話を聞いて、鹿児島でも埼玉でも子どもは同じだなと思いました。

- ・子どもたちの中に入り、子どもたちのことを理解しているつもりでも、上からの目線で言葉をかけたりすることが多いことを反省させられました。子どもたちのことを思う山本先生のお話がとても感動しました。
- ・「大好きなお母さんの支えになりたいミキ」のお母さんのおれての手紙。
- ・指導員としてのあるべき姿、難しいことですが頑張ってみたいです。
- ・子どもたちの中にいて、子どもの遊びなど子ども同士をつなげる仕事である、また子どもは子どもの中で育っている、改めて感じる印象強く残る言葉でした。
- ・子どものことを分かったつもりにならない！ 年数を重ねるとかんちがいやすくなります。子どもたちは日々変化するちゃんと見ていたいと思います。
- ・自分の経験談を話されている際に涙されながら…気持ちが伝わってまいりました。
- ・“そう！そう！”“ある！ある！”と共感できる話ばかりでした。
- ・子どもは子どもの中で育つ。身構えたり、とり繕ったりしなくてすむ、生活の場づくりに努めています。親は子どもの具体的な姿を知りたい、子どもの話の内容でこの学童が大切にしていること、ねがいは伝わってくる。
- ・保護者の方々への暖かさが心に残りました。少しでも見習いたいと強く思いました。支え合うがなれ合わない指導員の関係。

■いま、学童保育で困っていること、悩んでいること（課題）はありませんか？

- ・たくさんありますが、周りの先生方に相談しながらがんばっていきたいと思います。
- ・宿題の仕方（個別対応）について、どこまで教えたらいいか。
- ・保護者が自分たちの仕事を割愛しすぎていくこと。例一保護者会を少なくしていくこととか、ハザーに出店しないとか。指導員の時給、指導員の福利厚生。
- ・保護者会のあり方…忙しい仕事をもっておられる役員、保護者の現状の報告、協力のあり方、伝え方の難しさ。近年協力のあり方が変わってきた。
- ・子どもたちの日本語の不自然さ一主語、述語。言葉のつながりなど。
- ・保護者とのかかわり方、コミュニケーションのとり方など。
- ・児童の性への関心が強い子がいること。グレーゾーンの子への対応。
- ・宿題をなかなかしない子がいて、親が「お金を払って預けているのに、宿題もさせてくれない。」と学校の保護者に言っている。
- ・保護者会との関係性についてなかなかうまくいかないことが続いていしましたが、もっとこちらから声をかけて関係性の改善を目指したいと思いました。
- ・悩んでいられることは、仕事をしている現実です。困ったらみんなで話し合ったり、保護者に話しかけたりすることを先生のお話で学びました。今は解決していますが、まだまだたくさん課題はあります。指導力、言葉かけなどです。
- ・高学年の子どもたちへの学びについて学びたい。また、低学年から高学年になろうとする心の変化、発達について学びたいと思っています。
- ・保護者との関係性に悩んでいます。子どもたちの事を相談できる状況ではないことに困っています。
- ・先輩にいろいろと教えていただきながらも、これでいいのかなあと自信のないのが現状です。子どもにあまく見られているのは確かなのですが、「あまく見られてもいいのかなあ」と少し思っていますが、いいのでしょうか？

2013年6月26日

厚生労働省で「第2回放課後児童クラブの基準に関する専門委員会」が開催される

6月26日開催の第2回目は、「指導員の資格」「指導員の配置基準」「施設・設備の基準」「開設日・開設時間」「その他の基準」について、論点が示され、どう考えるか委員から意見を求める会議でした。

省令で決める基準と、ガイドラインに入れる内容の区分けなどについても論点としてだされていました。

- (1) 指導員の資格については、「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」第38条(児童厚生員＝児童の遊びを指導する者)をベースにすることが検討されました。資格が必要となる指導員の範囲(例えば、常勤だけで良いのかパートも入れるのか)、無資格者の指導員をどのように扱うのか、経過措置の必要性、認定講習の必要性、それとは別に現任研修の大事さなどが意見として出されていました。
- (2) 配置基準については、保育所のように子ども何人に職員一人とするのか、児童自立支援施設のように子どもの人数と指導員の人数に幅を持たせるのか(現在の児童数ランクに応じた指導員数のような方法)などについて議論があり、多くは子どもと指導員数の幅を持たせたものが良いのではないかなどの意見がありました。
- (3) 施設・設備について、「生活の場」として整備することの賛同はあるものの、広さで1.65㎡を基準とするものの難しさもあるとの意見もだされていました。
- (4) 終了時刻については、具体的な時間を明記するのは難しく「保護者の就労実態に即して」ということになるのではないかと意見が多くありました。

次回は7月24日(水)ということになり、次回も今回と同様に全体的に論点にそって意見を出し合うことという進行が確認されました。

第4回目は、関係団体からのヒアリングということになっていて、厚生労働省からは全国学童保育連絡協議会などから意見を聴くことを予定しているとお話でした(6月24日に内閣府からの全国学童保育連絡協議会へのヒアリングの席での発言)。

6月24日に内閣府から全国学童保育連絡協議会に1時間半にわたってヒアリングがあり、要望を述べてきました。

内閣府からのヒアリングも含めて、全国運営委員会ニュースで詳しく紹介する予定です。



関係する資料のホームページアドレスです。

■「第2回放課後児童クラブの基準に関する専門委員会」配付資料

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000008f07.html#shingi19>

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r985200000035dj3.html>

■第1回子ども・子育て会議 2013(平成25)年4月26日(金)

会議の資料と動画は、こちらへ

http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/kodomo_kosodate/index.html

■子ども・子育て会議基準検討部会 2013(平成25)年5月8日(水)会議の資料と動画は、こちらへ

http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/kodomo_kosodate/index.html

■(財)児童健全育成推進財団から、こども未来財団の調査研究報告書である「放課後児童クラブの運営内容に関する調査研究 改訂版 放課後児童クラブガイドライン」ホームページにアップ

http://kodomo-next.jp/materials_clubGL_new.html

地域連協の活動紹介

全国学童連協 日本の学童ほいく「よかたいニュース No.1」(2013年5月30日)から

「ほいく誌で学ぼう会」やっと発足

霧島市連絡会 田間美沙緒

鹿児島県児童クラブ連絡協議会は7年前にできました。県内を7つのブロックに分けてそれぞれに運営委員をおき、連協を運営することにしています。しかし、このブロック間の移動は、1時間から2時間、離島にいたっては半日がかりとなります。したがって、運営委員会の出席率もあまりよくなく研修会も参加者の地域が片寄ってしまう傾向にあります。研修会のあとのアンケートを読むと、「初めて研修会に参加しました」「同じ悩みが聞けて心強かった」「もっと参加したいが、遠いので……」といった声が多く聞かれます。

では、県連協としてどうしていくか? 『日本の学童ほいく』のPR! 研修会のたびに「いい本ですよ、読んでください」とアピールし、独自のチラシも作成したり、呼びかけでもきました。そのかいもありジワジワと冊数は伸びてきました。でも違う。何か違う。買っているけど読んでない?

もちろん、しっかり読み込んでいる指導員もいます。しかし大半は、パラパラと興味のあるところだけ読んで終わり。横の広がりが無いというのが現状でした。

そこで、地域連協のなかでも比較的活発な霧島市と鹿屋市の指導員の代表が集まり初めて、「ほいく誌普及活動」について話しあう機会を持ちました。具体的な取り組みとしては

①地域連協ごとに担当をおき、連絡を取りあい、情報を交換する。

②「子どものひろば」への投稿を頻繁に行う。

③読み合わせを意識して行う。

④自分の地域だけでなく他の地域の活動も意識する。

⑤財政面の大きな支えであることを知らせ、切実な現状を向上させる。

そして、この取り組みを進めるなかで私たちが掲げた目標は「指導員一人1冊全員購読」と、「読み合わせ会を行う」ことです。しかし、地域間のつながりが薄く、(県連協に加盟している)指導員の数さえ把握できていない現状です。そこで、加盟クラブ全部には、アンケートをお願いし、私の住む霧島市の指導員会では、「ほいく誌で学ぼう会」を4月からスタートさせることができました。指導員の方たちにこの会の趣旨を説明したところ、賛同をいただき、毎号の特集テーマを中心に読み合わせを行うことになりました。その結果4月号から5月号の1か月で購読冊数も13冊増えました。

やはり、「読んでくださーい」だけではダメ。ほいく誌を中心に、つながっていくことが大切なんだと認識した1か月でした。